

あらためて「新書本」の薦め

■まずはお詫びから

寒中お見舞い申し上げます。実は、この号は9月末に出る予定でしたが、担当者（私）の不幸で、今になってしまいました。謹んでお詫びいたします。厳冬の季節、外は寒いですよ。暖かい所でする読書は、最高の贅沢ですね。

3年生の皆さんは、多くの方がこれから入試本番。ゆっくり読書の時期ではないですね。大変ですが、最後まで頑張ってください（応援しています）。

■新書とは

ここでいう「新書」は、新しく出た本（新刊書）ではなくて、文庫本を縦長にしたサイズ（173×105mmくらい）の本のことです。このサイズは、通勤・通学時の読書に最適で、お値段も手頃です。ジャンルは、小説以外のオール・ジャンル。今どきの世相や社会問題、趣味・娯楽、蘊蓄のあるものまで何でもあり、内容も一般人向けなので、読みやすいものが多いです。また、出版社も岩波、中央公論、新潮、朝日、文春、角川、ちくま、講談社、幻冬社、光文社、集英社、平凡社、NHK出版などたくさんあり、それぞれに独自色が感じられます。ちなみに、わが図書館は、岩波新書と岩波ジュニア新書、岩波科学ライブラリーの新刊はすべて購入しています（知ってた？）。ところが、なぜか、新書本は借り手が少ない。いつも「借りてくれ〜」って訴えている図書です。

さて、1年生には夏に「新書を読もう」というキャンペーン（課題）をやりましたが、今回は改めて、お薦めの新書を紹介します。社会科的なもの、かつ新しいものを中心に、勝手気ままに紹介しますが、ご容赦を。

■新書本のすすめ

(1) 民主主義や民主政治というものを考えるなら……

①『民主主義という不思議な仕組み』（佐々木毅著、311/S10/4）、②『僕らの民主主義なんだぜ』（高橋源一郎著、914/T69/1）。18歳選挙権の導入とともに、若者はもっと政治に関心を持つべきだという声をよく聞くようになりました。しかし、トランプ大統領の登場やら、イギリスのEU離脱やら、日本では突然の衆議院解散やらで、「民主主義って何だろう」と思う場面がよくあります。そこで、これを機に民主主義について考えてみてはどうでしょう。さらに、③『トクヴィル』（富永茂樹著、311/T6/1）のおすすめ。トクヴィルは、進歩的といわれた19世紀のアメリカの民主主義に疑問を感じたフランスの思想家です。参考になります。

(2) 気分的に疲れているときは……

④『気持ちが楽になるスヌーピー』（谷川俊太郎訳、159/S14/4）、⑤『癒されたい日のぼのぼの』（いがらしみきお作、726/I9/1）。スヌーピー……犬小屋の上で妄想にふけるヘンな犬？ぼのぼの……海や野山でボーッと生きてるヘンなラッコ？ いやいや、実は彼らはただ者ではありません。自然や社会で生きるというのはこういうことなのかと、気づくかもしれません。スヌーピーは、英語の勉強にも……なりますかね？ あと、⑥『ディズニーとプリンセスと幸せの法則』（荻上チキ著、778/O9/1）。「白雪姫」以来のディズニー映画のプリンセスの夢や幸せの作り方には、プリンセスはプリンスに出会うとすぐに恋に落ちるとか、キスをすると魔法が解けるとか、法則があるらしい。癒やされますか？

(3) 人間の濃厚な生き様に触れたいなら……

⑦『田中角栄』（早野透著、289/T34/1）。角栄さんに纏わる言葉は、「今太閤」「コンピュータ付ブルドーザー」「越山会」「ロッキード事件」などたくさんあります。2016年はなぜか「角栄ブーム」が起こり、「角栄本」がたくさん出版されました。良くも悪くも不世出の政治家なのでしょう。そして⑧『チェ・ゲバラ』（伊高浩昭著、近日入荷）。ゲバラは1950～60年代の中南米やアフリカの革命に身を投じた人物で、特にキューバでは英雄です。2016年のアメリカとキューバの国交回復、2017年はゲバラ没後50年と、この人がまた話題になりました。「ゲバラ・ブーム」は常に起こっている気がしますが、「色あせない英雄」なのでしょう。

(4) 将来働くことが不安に感じるならば……

⑨『労働法はぼくらの味方』（笹山尚人著、366/S16/1）、⑩『AI時代を生き残る仕事の新しいルール』（水野操著、近日入荷）。近頃は、「ブラック企業」のひどい実態や政府のいう「働き方改革」が話題になっています。いずれにせよ、日本の労働環境は大ピンチ。こんな時代に社会に出る若者は、そりゃあ不安でしょう。そこで、少しでも元気になれるように、冒頭の2冊を。⑪『AKB48とブラック企業』（坂倉昇平著、767/S10/1）という本もありました。AKB48の50曲を部分的に取り上げて、これらは労働ソングだと述べています（ホンマかいな？）。AKBは小泉改革もたらした格差社会の落とし子……なんでしょう？

(5) 外国人からみた日本社会は……

⑫『クール・ジャパン』（鴻上尚史、914/K63/1）、⑬『ニッポン社会入門』（コリン・ジョイス著302/J1/1）。「クール・ジャパン」という言葉は、昨今の「日本ブーム」の走りでした。日本の制度や文化、商品はよく出来ているということ。しかし、近頃、ちょっとおごり過ぎだと思えます。⑬のコリン・ジョリスは、ビール好きのイギリス人おやじジャーナリスト。日本人とイギリス人って、氣質が似ているなと思えてしまいます。あと、⑭『外国人が選んだ日本百景』（S. シェウエッカー著、291/S32/1）という本もあります。

(6) 江戸の生活文化に興味があれば……

⑮『武士の家計簿』（磯田道史著、210/I55/1）、⑯『グローバルゼーションの中の江戸』（田中優子著、210/T70/2）。⑯は金沢藩士・猪山家の家計簿の話で、家計は今も昔もやりくりで苦勞しているのがわかります。こういう研究って楽しさだろうなとも。⑯は江戸文化におけるグローバルゼーションを分析する一方で、今のアメリカナイズされた日本のグローバル化を批判しています。私の周囲にも「江戸マニア」が結構います。お寿司を食べに、わざわざ江戸＝東京に行く人もいます。江戸の魅力、わかりますか？

(7) （無謀にも）今日のアメリカを理解しようとするなら……

⑰『ルポ・不法移民』（田中研之輔、334/T7/1）、⑱『アメリカ政治の壁』（渡辺将人、312/W6/1）。2017年の国際ニュースは、トランプのアメリカと、金正恩の北朝鮮ばかりだったような気がします。しかし、アメリカという国の政治は、理解に苦しむ。なぜ、キューバとの首脳会談や被爆地広島訪問を実現したオバマの次に、イスラム教徒排斥やメキシコ国境に壁を作るトランプが出てくるのか。共和党と民主党で交代交代に政権をとり、その度に、政策が振り子のように左右に揺れる。この2冊は少し骨のある内容ですが、難解なアメリカの理解の助けにはなるでしょう。あと、⑲『ルポ・トランプ王国』（金成隆一著、341/K4/1）という本もあります。

(8) 現代的な経済理論に触れたいなら……

⑳『最新・行動経済学入門』（真壁昭夫著、近日入荷）㉑『非対称性の経済学』（藪下史郎著、近日入荷）。行動経済学は、人間の心理分析をもとに経済を考える。つまり、従来の経済学では、人間は常に「合理的な行動をとる」のが前提だったが、行動経済学は「非合理的な行動もとる」という前提で経済を考えるものです。2017年に、行動経済学の大家・リチャード・セイラー教授がノーベル経済学賞をとったのは、記憶に新しい所です。㉑の「非対称性」の話は省略（読んでね）。それと、㉒『高校生からのゲームの理論』（松井彰彦著、近日入荷）。今日の政府の政策決定（外交政策、経済政策など）や企業の意思決定を考えるときに、「ゲームの理論」という意志決定モデルを用いることがあります。これはその入門編ですが、ハマる人はハマります。

(9) 企業の経営戦略に興味のある人は……

㉓『なぜアマゾンが1円で本が売れるのか』（武田徹著、361/T22/1）、㉔『ネーミングの強化書』（高橋誠著、674/T4/1）。アマゾン、ユニクロ、スターバックスなど、ユニークな経営スタイルで大成功した？ 例はたくさんあります。また、ビジネスにおいて「企業名」や「商品名」は大変重要で、それを「ブランド化」させることが、今日の経営戦略の1つなのでしょう（「通勤快足」「LINE」「お〜い、お茶」などは成功例らしい）。ネーミングに関する書物もたくさん出ています。

(10) もっともっと本を紹介してほしい人は……

㉕『新書百冊』（坪内祐三、019/T2/1）、㉖『考える人は本を読む』（河野通和、近日入荷）。㉕はいろいろな新書を紹介したもの、㉖は「考える」をテーマにいろいろな本を紹介したものです。こういう本を参考に、各自の読書ライフを広げていって下さい。（おわり）